

# ピスガからの風

## 第35号

2013年9月

社会福祉法人 近江ちいろば会

ピスガこうせい 〒520-3242 滋賀県湖南市菩提寺327-4

TEL.0748-74-3900 (代表)

FAX.0748-74-3910

http://chiiroba.jp/

猛暑日が続きましたが、皆様お元気でお過ごしでしょうか？

社会保障のために消費税を上げると言われていましたが、さて実行は・・・

今の日本は、高齢になっても安心して生活できる社会から、だんだんと離れてしまっているのではないか、その中で社会福祉法人として果たす役割は何か・・・と自問する毎日です。

地域社会に存在する近江ちいろば会として、少しでも地域が元気に、住民が安心できるために働いていきたいと願っています。



館長 森口 茂

## みなくちみんなの家 夏祭り

8月25日(日)



猛暑の日が続く中、前日と当日の恵みの雨のおかげで涼しく気持ちの良い夏祭りを、ご入居者様、ご家族様と共に楽しむ事が出来ました。職員のリコーダー演奏で始まり、ハミングバードさんのギター演奏、全員参加での花笠音頭と続き、参加いただいた皆さんに楽しんで頂けたと思います。模擬店では特に、運営推進会議のメンバーである区長さんや民生委員さん達に手伝って頂いた「たご焼き」は大人気でした。ご近所の方々やほだいじの職員を含め、総勢110名の大盛況な夏祭りとなりました。ご協力いただいた皆様、本当に感謝申し上げます。



## 近畿老人福祉施設研修会に参加して

ケアハウスピスガこうせいは、7月18・19日大津プリンスホテルで行われた近畿老人福祉施設研修協議会滋賀大会で『ピスガこうせいが入居者にとって我が家となる為に』をテーマに発表しました。

職員は、ケアハウスの課題である終の棲家を提供したいと思っておりますが現実には退居せざるを得ない現状に対して、ピスガ独自でおこなっているケアハウスの統合マネジメントの取り組みについて発表し、高い評価をいただきました。



## 寄付金・後援会費 感謝報告

2013年4月1日～2013年8月25日までの後援会費 (順不同・敬称略)

谷本 めぐみ	前田 洋二	森口 貴子	森口 まつえ	五味 由紀子
大門 義和・セイ子	松平 吉生・千鶴子	植野 茂男	森口 芳茂	後宮 耕三・明子
近江印刷(株)	眞壁 日史郎・泰子	川嶋 昭吾	萩山 美代	増井 武彦
木村 量好	中西 加代子	廣瀬 芳之	東嶋 和代	川上 昭子
藤平 則夫	井上 明	道城 献一・義子	藤原 忠昭	津崎 めぐみ
内藤 弘子	森口 孝彦	三原 弘子	日清医療食品(株)	佐治 千栄子
西八條 敬洪・久江	後宮 周子	西川 泰子	近畿支店	春名 康範
川田 達生・礼子	山田 喜久子	江坂 剛三	木村 稔	小久保 正
松田 小夜子	佐藤 義彦	池田 澄子	八子 美代子	石岡 和喜夫
九條 知恵野	馬場 正勝	大西 千代子	平野 正	上田 圭子
南 俊子	山崎 敬子	本田 和之	植田 清一郎	安野 善仁・優美
伊勢戸 敏信	福澤 祥	上島 良彦	大山 孜郎・悠子	石田 しずゑ
作野 勲子	東島 勇氣	原田 潔	守岡 英子	佐賀 昭子
谷口 定	伊地智 藤太郎	今西 伊都子	山田 陽子	三宅 光子
人見 勝	登 政弘	中道 晴夫	山田 晴夫	坂口 正
和田 かほる	榎本 栄次	瀧 加代	菅原 博	
鈴木 真志	野村 昌代	目戸 竜太郎	松山 克子	

後援会へのご加入をお願い申し上げます。ご協力いただいております方々のご芳名を掲載し、報告と御礼とさせていただきます。

## 「ゴーヤのカーテン」

中央デイサービスセンター しんあい

今年も環境ボランティアさんのご協力のもと、庭のゴーヤカーテンが順調に育ちました。ゴーヤ料理のパリエーションも増え、利用者様に好評です。今夏もゴーヤのおかげで暑い夏を元気に過ごす事が出来ました。ありがとうございました。



## 事業内容

ケアハウス ピスガこうせい/ほだいじデイサービスセンター/ほだいじホームヘルプステーション/ほだいじ居宅介護支援センター/高齢者支援センターほだいじ/グループホームほだいじ/中央デイサービスしんあい/小規模多機能型居宅介護 ほだいじみんなの家/みなくちみんなの家(グループホーム、デイサービス、ケアプランセンター)/ほだいじ訪問看護ステーション

発行日 2013年9月

発行責任者

理事長 奈良 豊 夫  
館長 森口 茂



取り扱い金融機関 郵便局

口座番号 00960-0-109363

社会福祉法人 近江ちいろば会

会費：年額1口 5,000円 (何口でも可)

## 「人生の贈り物」

「古い」と呼ばれる人生の時をいかに歩むか、80年を超えて人生を歩む人が珍しくはなくなった今、それは私たちに共通した関心事であり、課題でもあります。

韓国のフォーク歌手楊姫銀(ヤン・ヒウン)さんが書かれた「人生の贈り物」という詩の中に、こんな一節があります。「季節の花がこれほど美しいことに/歳を取るまで、少しも気づかなかった/美しく老いてゆくことが/どれ程に難しいかということさえ/気づかなかった/私の人生の花が散ってしまう頃/やっと花は私の心に咲いた/並んで座って、何も言わずにうなずきながら/私の心がわかってくれる友が生きていれば/並んで座って、沈む夕日を/一緒に眺めてくれる友が居れば/他にににも望むものはない/それが人生の秘密、それが人生の贈り物」

人は歳を重ねて老いの時を迎えると、体力や判断力などが小さくなって行くのを感じ、「力が失われて行く」と受けとめます。けれど老いの季節は、力が奪い去られ、失われていくのではなく、そっと取り除かれていく時なのだと思っています。それは人生にとって何が大切なことか、何が一番大事なことを、その人がそして家族が深く知って歩むことが出来るように、老いの季節になると余分なものが取り除かれるのではないのでしょうか。

気づきの時が訪れたときには、そっと背中を押してくれる誰かが、傍らに一緒にいてくれることが必要です。その役割を担うのが福祉施設のスタッフの方なのだと思います。そのような「隣人」としての「福祉の働き人」に出会えたなら、それは私たちの人生への深い贈り物です。

ピスガこうせいは、そのような贈り物を、利用して下さるお一人おひとりにお届けする施設として歩み続けています。老いの季節は、誰かと「共に歩む」ことの大切さと豊かさを周りの者にも教えてくれるときなのだと思います。ピスガこうせいを訪ねてみてください。「古い」の時を過ごすひとつの道をご覧いただけたらと思います。

評議員 同志社教会 牧師 望月 修治

## 敬老の日 ケアハウス入居者様 堀江 遠久子様(103歳) インタビュー



堀江遠久様は9月18日で103歳を迎えられますが、少しの身の周りのお手伝いを受けケアハウスでの生活を楽しまれています。

・元気の秘訣は、数年前まで、毎日生野菜と果物、蜂蜜のジュースを手作りして飲んできた事と、子供の頃に岡山県浅口郡の祖父母に育てられた時に、鰯やママカリなどの小魚や庭に植えていたイチジク、ビワなど果物をふんだんに食べたのが、今の私の土台になっています。  
・心の支えはキリスト教の信仰で、毎朝のお祈りと聖書を読む事が支えになっています。キリスト教を信仰し始めたのは19歳の時で、女学生時代 キリスト教に憧れていた時に私のところにキリスト教が巡ってきました。私は『私の様な者でも神に選ばれた。』と思っています。今の楽しみは、聖書を読む事で、食事の時間も忘れるぐらい没頭してしまう時があります。

・主人との出会いは、祖父の死後、大阪の親類宅に預けられた先で、親類宅に家庭教師に来ていた主人と知り合い結婚しました。  
・最近、長生き、必ずしもいいことばかりではないですが、どう生きるか日々考えています。主人が亡くなったからの10年間は保護司の仕事に就いていました。その時にいろいろな家庭、人の裏側も見てきました。人生にはいろいろなありますが、今はこのように、ケアハウスで豊かな思いで生きることができ感謝しています。

## 基本理念：人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい。

私たちはキリスト教の精神に基づいて、高齢者の全生活において、「隣人愛の奉仕」を実施することを基本理念とします。

